

アカデミープレジデント会合 (APM) の概要

日時: 2021年10月4日(月) 18:30 - 20:00

会場: オンライン (Microsoft Teams)

主催: 日本学術会議

出席者: 26 アカデミー/機関

(詳細は末尾出席者一覧参照)



共同議長: ドイツ レオポルディーナ ジェラルド・ハウグ 会長
日本学術会議 梶田隆章 会長

テーマ: “The Effects of Climate Change on the Ocean and the Polar Regions ”

「海洋および極地への気候変動の影響」

気候変動は海洋及び雪氷圏に深刻な影響を与えており、極地では他の地域よりも温暖化が進んでいる。海氷の減少、永久凍土の融解、海洋の酸性化、海水面の上昇等は地球全体の脅威であり、海洋及び雪氷圏は地球規模の気候システムのキーファクターである。科学は、地球規模の気候や生態系の健全性に対する海洋及び雪氷圏の重要性を深く理解する上で欠かせない知識を提供し、気候変動の緩和策や適応策の考案を支援してくれる。気候変動は全ての人々が直面している課題であり、持続可能な未来に向けて、全ての人々が一緒に取り組む事によってのみ、対処可能である。(仮訳)

ディスカッション概要:

梶田隆章会長より、開会挨拶を述べた。概要は以下の通り:

- 新型コロナウイルスが引き続き世界で猛威を振るい、多くの課題に直面している一方、多くの国・地域が過去に例を見ないほど自然災害に見舞われており、気候変動もまた国際的な連携を通じて対処すべき喫緊の課題である。
- 我々は世界の異なる場所から集まり、異なるバックグラウンドを有しており、そうした多様性が本会合の真の価値である。



ジェラルド・ハウグ会長より、開会挨拶を述べた。概要は以下の通り:



- レオポルディーナは2022年Gサイエンス学術会議を主催する。今回のAPMのテーマである「海洋および極地への気候変動の影響」は、ドイツ首相との緊密な連携の下、Gサイエンス学術会議のトピックとしても検討される可能性がある。本テーマはG7の文脈においても、IPCCを含む地球規模での取り組みに即した価値のあるトピックである。

- これまでのアカデミアの献身的な取り組みにより調査やデータは整備されており、実行について議論すべきである。

レポートセッションにおいて、10 アカデミー/機関よりスピーチが行われ、高村ゆかり副会長が次のように総括した。

- 「気候変動に係る課題の重要性および緊急性、生物多様性、地球規模のエコシステム」という共通認識が確認された。生物多様性および地球規模のエコシステムは、喫緊に対応すべき「ツインクライシス」と呼ばれている。
- アカデミーは、以下のような課題に対して、協働すべきである。



- ・気候システムや活動、海洋及び極圏への気候変動のインパクトに対する一般的な理解を、どのように改善するのか
- ・気候変動および活動に係る科学的エビデンスを、どのように社会に提供するのか
- ・理解および緊急性に基づく方策を、どのように国内外で協力しながら実行するのか

ディスカッションセッションでは、活発な議論が交わされた。ディスカッションは複数のアカデミーからの意見表明に始まり、その後、ジェラルド・ハウグ会長が“*It is a chance to treat Carbon Dioxide as ‘garbage’. How can we think of its price?*”という質問を投げかけた。アカデミーの代表者からは、「政治的な美辞麗句ではなく、アクションが不足している。」といった意見が挙げられた。最後にジェラルド・ハウグ会長が以下のように総括した。

- アカデミアと市民とのコミュニケーションの欠落に注目する必要がある。どのように科学的調査によるメッセージを人々の行動変容へとつなげるのか、検討すべきである。協働および社会的包摂は不可欠であり、国際機関において取り上げられることが少ない地域の参加やプレゼンスは改善されるべきである。
- パンデミックは、人々の危機意識を研ぎ澄ますだけでなく、「人類は行動できる」ということを示した。私たちはパリ協定の失敗の現実を受け入れ認識する必要がある。二酸化炭素の価格設定といった精選されたトピックに基づき政策決定者を説得するといったアクションをどのように行っていくべきか、戦略的に考えなければならない。

梶田隆章会長より、閉会挨拶を述べた。概要は以下の通り：

- 科学が、地球規模のレジリエンスおよび持続可能性の鍵である。我々アカデミーは SDGs の意義を認識しつつ、誤/偽情報との闘い、あらゆる人々のサイエンスへのアクセスの確保、サイエンスおよび世界の未来に向けた人材育成、科学外交を含むより良い政策決定に向けた信頼構築、様々なステークホルダーとの協働を通じて、科学の役割を強化し続ける。
- 我々科学者の努力や声を最大化しながら地球規模の課題に取り組む際、ナショナルアカデミーおよび国際的科学的諸機関とのグローバルな連携がより重要となる。

APMでの議論は大変有益であった。出席者がそれぞれのアカデミーの取り組みについて紹介・意見交換し、今後の多国間協力の可能性を開く機会となった。



<出席者一覧>

- Academia Sinica
- Academy of Physical, Academy of Sciences Malaysia
- The Academy of Sciences of IR Iran
- American Academy of Arts and Sciences
- Australian Academy of Science
- Bulgarian Academy of Sciences
- Caribbean Academy of Sciences
- French Academy of Sciences
- Indonesian Academy of Sciences
- The German Academy of Sciences Leopoldina
- Institutes of Science and Development, Chinese Academy of Sciences
- The InterAcademy Partnership
- International Science Council
- International Sociological Association
- Mexican Academy of Sciences
- National Academy of Sciences
- The National Academy of Sciences, Republic of Korea
- Nepal Academy of Science and Technology
- The Royal Academy of Cambodia
- Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences
- The Royal Society
- The Royal Society of Canada
- Science Council of Japan
- Slovak Academy of Sciences
- Swiss Academies of Arts and Sciences
- Turkish Academy of Sciences